

ご挨拶



1997年、横浜みなとみらい21地区に開業したパンパシフィックホテル横浜。みなとみらいの海と観覧車が見える展望、バルコニーへのドアを開けると潮風が吹き抜ける最高のロケーションです。あの偉大なシェフ石鍋さんから、当時僕が居たリーセントパークホテルの調理場に電話をいただき、「脇屋君、横浜に素晴らしいホテルを作ろうと思っているのですが、よかったら一緒にやってみない。横浜に新しい風を吹かせませんか？」その時の喜びと感動、体全体が熱くなり、身震いしたことを今でも忘れません。

38歳でツアーランドットの代表取締役総料理長に就任し、走ること走ること走り続け23年、疲れを感じず、自分は超人かな？と思うぐらい力漲る毎日だったと思います。沢山の方にエールをいただき、笑顔をいただき、ときにはお叱りを頂戴することもありました。



オープン間もないころ、ツアーランドット游仙境で結婚式を挙げたご夫婦がつい先日「子供が20歳になりました！」と駆けつけてくださり、非常に感動、感激しました。レストランというのは、生まれるまでのわくわくと苦勞が沢山あり、成長させていく苦勞と楽しさと嬉しさがあり、まさに子育てだと思えます。

いろんなことがありました。皇太子殿下ご夫妻（当時）のお出ましの際にご夕食を作らせていただいたこと。クリスマスパーティーやお正月の賑わい、お料理教室、フジテレビ「料理の鉄人」に出たのも横浜、日本テレビの「ゴチになります！」を徹夜してやったこと。当時、多摩の自宅から70キロの道のりを行き2時間半、帰り1時間半かけて通ったこと、途中眠たくて眠たくて、平和島のパーキングで仮眠のつもりが気づいたら朝になってしまったこと。数えきれない思い出、お話が沢山あります。



お客様、関係者の皆様、業者様にはお世話になり、皆様に支えられて23年間営業をさせていただきましたが、このたびのコロナ禍による想像以上の打撃。その中で、手を尽くし、戦って戦って走り続けてきました。ここのおそばは美味しいね、きれいな料理だね、器もいいね、いろいろ褒めていただき、その言葉を励みに来ましたが、ついに走り続けることを断念し、今年の11月末をもって閉店させていただく決意をいたしました。

本来であれば、感謝デーなどを作り、お別れ会を催して皆様のお顔を拝見したかったのですが、何分コロナの嵐が収まっていないこの時期にお越しいただくことがままならず、このご挨拶文にてご容赦いただければと思います。

23年間の歳月に心から感謝を申し上げるとともに、必ず不死鳥のように蘇る力をつけ、再生できる日を夢見て、お別れの挨拶の結びとさせていただきます。

なお、赤坂のWakiya 一笑美茶樓、トゥーランドット臥龍居はこれまでどおり、営業を続ける所存です。全スタッフを赤坂に集結し、お越しいただくお客様に心から喜んでいただけるよう料理人として、サービススタッフとして、人間として精進して参ります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

トゥーランドット游仙境に携わっていただいた横浜ベイホテル東急の総支配人、総料理長はじめ同じホテルで働いていた仲間の皆様にも心から御礼を申し上げるとともに皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束はまだ見えず、また生活様式の変化に伴い何かと不安定な毎日かと存じます。皆様におかれましては、心身ともに健やかに過ごしていただけますようお願い申し上げます。



令和2年11月3日

トゥーランドット游仙境 オーナーシェフ

脇屋友詞